

# 公園内で見られる植物

写真は2月3日(土)  
自然観察会で見られた  
植物です



ヤブツバキ (ツバキ科)

日本3大ヤブツバキ群の1つが松江城の椿谷であることや、松江市の花として制定されていて、とても身近に感じる木です。日本に自生している野生種はヤブツバキとその変種の「雪椿」と「屋久島椿」だけです。名前の由来は葉に艶があることから「艶葉木(つやはき)」あるいは葉が厚いので「厚葉木(あつはき)」が転訛したものとされていますが、定説ではありません。

園芸種も多く栽培されていますが、茶花として一輪挿ししてあるとなんともいえぬ風情がありますね。



### ガクアジサイ (アジサイ科)

一塊になった珊瑚状の花の部分が枯れて残っていました。周りにある透かしになった部分は飾り花(萼片)でしょうか?葉でしょうか?



### ウバユリ (ユリ科)

和名は「乳母(姥)百合」と書きます。花が咲く頃ウバユリは葉がなくなることが多い為、役目として子供を育てた乳母が、娘が花盛りになったころに歯(葉)が無くなることから、語呂合わせで付いたようです。

球根は百合根として食べられます。掘る時期にもよりますが、独特の匂いと少し苦味(栽培用と若干違う)がある為、茹でて食べるよりも天ぷらなど、油を使った料理法が良いと私は思います。



### ヒサカキ (ツバキ科)

名前の由来は「サカキに似てサカキに非（あら）ず」とか、サカキより小振りという意味で「姫サカキ」が転訛してヒサカキになったという説があります。神事の際サカキの代用品として用いられる所もあるようですが、私の所では「シブキ」と言って常緑なので、いつでも仏事の時に使用します。葉の先端がやや尖り反り返り、縁にギザギザがあります。花芽が沢山付いていますね。



### キヅタ (ウコギ科)

フコヅタとも言います。常緑樹で葉は厚く固く、光沢があり濃い緑色をしています。茎から根（気根）を出して木に絡み、絡んだ木を枯らすこともあります。私はツタウルシと間違える事がよくありますが、葉の形と気根があるかどうかで判別しています。どちらにしても触りたくないですね。



トキリマメ?タンキリマメ? (マメ科)

どちらもツル性の多年草です。トキリマメとタンキリマメ良く似ているので、葉っぱが無いと見分けが付きません。実の付き方もそっくりです。黒く光沢のある種子は去痰剤として用います。



ウラジロチチコグサ (キク科)

多年草。茎は基部から横に分岐して叢生し、ロゼット状で冬を越します。春になると直立する茎を伸ばして花を咲かせます。チチコグサによく似ていますが、葉の先端が丸みを帯びているので、区別できます。葉の裏が白い毛で密に覆われているのでこの名前が付けました。外来の雑草ですので除去したいのですが、除草剤も効きにくく抜き取るしかありません。こう密生して生えていると他の植物も一緒に抜けてしまうので、厄介です。